

度会カフェリヨクプロジェクト

このプロジェクトは、皇學館大学の学生が主体となり、伊勢茶や日本茶の魅力を発信していくプロジェクトである。ここでは、地域社会研究会の学生がプロデュースし、完成した商品「宇治山田の和紅茶」を販売している。販売を通して、企業や地域の人と直接関わらながら自分が持つそれぞれのスキルをうまく使いながら活動している。

TEAM DATA

メンバーカー数：6名
活動場所：度会町
担当教員：藤井 恒子（現代日本社会学部）
活動年度：H28, H29, H30, R01, R02, R03



月別活動

(5月) CLL説明会発表、
國學院短期大学との交流会

(6月) 國學院短期大学との交流会

(7月) 西南学院大学との交流会

(10月) 國學院短期大学との交流会

(12月) イルミネーション冬のフェスティバルにて「宇治山田の和紅茶」販売、
國學院短期大学との交流会



(1月) 名古屋学院大学との交流会

(2月) 「宇治山田の和紅茶」の商品内に入れる説明書の作成・完成、
國學院短期大学および香川大学と個別で交流会

活動を通して学んだこと

度会カフェリヨクプロジェクトでは、新型コロナウイルスの影響もあり、思うように大学外で活動ができなかった。そのような中、「イルミネーション冬のフェスティバル」や他大学の皆さんと交流を通して学んだことがある。それは「人との繋がり」の重要性である。

「イルミネーション冬のフェスティバル」では、藤屋窓月堂さんや播田屋さんと共に販売を行った。その際、私たちが販売している「宇治山田の和紅茶」について興味をもってもらうことができた。また、私たちが行っている商品開発についても関心を持ってもらえた。このような「繋がり」を構築することで販売や商品開発の幅をさらに広げられることを学んだ。

交流会では、商品開発や商品販売に関しての意見交換を行った。第3者の意見を聞くことで、新しい意見や今まで気づかなかつた課題発見に繋がった。「コロナ禍だから活動できない」とどこか諦めている部分があった。しかし、交流会の実施後は「それは違う」ということに気がついた。今までとは活動の方法は違っても、「宇治山田の和紅茶」をPRし、人に伝えることができると学んだ。

担当教員より

現代日本社会学部 藤井 恒子

コロナ禍ということで、今年度も活動がかなり制限された。ただし、そのことで活動を停止するのではなく、他大学との交流や「宇治山田の和紅茶」の箱の中に入れる説明書の作成など、コロナ禍で空いた時間があったからこそできることを探り、実際に行動に移した。その際、本プロジェクトのメンバーたちは、他大学やメンバーの日程調整や司会進行、発言、プランニング、デザインの考案など、様々なことに積極的に関わっていたため、そのメンバーの姿に感心したことしきりだった。次年度さらにどのような展開が見られるのか、今から非常に楽しみである。



成果物 / 制作物

「宇治山田の和紅茶」の説明書